



## ②事業紹介

6/48

鷹取製作所は、基幹事業である「官公庁船用バルブ・ストレーナ事業」  
来るべき自動運航船時代の船舶の安全を支える「自動化機器事業」  
持続可能な地球環境(SDGs)への貢献を目指す「水素関連事業」  
以上3つの事業を通じて、次世代を担う製品の供給を目指しております。

### バルブ・ストレーナ事業



### 自動化機器事業



### 水素関連事業



(オンラインによる講演)

## ⑤研究開発の取り組み

17/48

### 水素関連事業

#### カーボンニュートラルの産業イメージ



自社が有する銅合金材料及び鋳造技術の適用先イメージ

経済産業省 資源エネルギー庁HP「カーボンニュートラルの産業イメージ」から引用

◆ 開会挨拶 一金会 会長 佐伯 心高

◆ 講演：『中小ものづくり企業の研究開発型企業を目指した取り組み』

講師：株式会社 鷹取製作所 代表取締役社長 藤山 幸二郎 氏

(講演概要)：今回の講演では、「一業に徹す」の理念の下、創業80周年を迎えた鷹取製作所の「研究開発型企業を目指した取り組み」が紹介されました。

鷹取製作所は創業以来、「顧客満足度100%の製品供給」を目指し、QCD

(品質・納期・コスト)の向上に努め、官公庁船舶向けのバルブやストレーナの一貫生産(鋳造・加工・組立・検査)を特徴とし、長年にわたりユーザーからの厚い信頼を得ています。

しかしながら、主力製品がプロダクトライフサイクルの安定期に入り、平成22年(2010年)以降、売上高が減少傾向になったことから、これに強い危機感を抱き、その対策として大学と連携して研究開発に着手。更に柔軟かつ迅速な研究開発の推進のため、2020年にオープンイノベーションを活用した研究開発・製造を担うスタートアップ「オートマイズ・ラボ」を設立し「後付け自動化機器」の開発を開始。この「オートマイズ・ラボ」とのシナジー効果により、鷹取製作所の業績は回復へと転じたことをお聴きしました。

研究開発の取り組みでは、複数の大学との共同研究をはじめ、ものづくり補助金やサポイン事業など国の支援制度の活用、水素関連事業においては「福岡県水素グリーン成長戦略会議」への参画など、新規事業創出を目指した企業戦略が積極的に展開されています。

本講演では、これらの具体的な取り組みや基本理念について、詳細にご講演いただきました。

◆ ショートプレゼン：『マッチングイベントのご案内』 九州ニュービジネス協議会 事務局



**日時** 令和6年11月1日(金) 16:00~17:30

**開催方法**

**Webex活用**

【入会の問合せ先】：産学官交流研究会 博多セミナー事務局(産業技術総合研究所 九州センター内)

TEL：050-3522-7234 FAX：0942-81-3691

E-mail：hakata-s-mi@aist.go.jp

※入会者には、毎月メールで開催案内をお送りします。

入会  
無料

参加  
自由

(注) 販売及び勧誘目的(当交流会後の販売及び勧誘目的の個別連絡を含む)での参加はご遠慮願います。

主催：経済産業省 九州経済産業局、国立研究開発法人 産業技術総合研究所 九州センター、  
独立行政法人 中小企業基盤整備機構 九州本部、一般財団法人 九州オープンイノベーションセンター、  
一般社団法人 九州ニュービジネス協議会